平成29年度　大阪府立岬高等学校　第３回学校協議会　議事録

平成30年３月５日（月）午後３時～

於　岬高等学校　校長室

出席者　【委員】見先　梅川　松本　西本　矢田（欠席）　齋藤　（敬称略）

　　　　【岬高校】校長　教頭（２名）　事務長　首席（教務主任・保健主事）

　　　　　　　　　進路指導主事　生徒指導主事　国際交流委員長

特別支援コーディネーター　山海人委員長

１．【学校長挨拶】

　・本校教員の不祥事についての説明とお詫び。

　・10月の台風により南海電車の一部区間が不通になり、バスをチャーターしていただいたことへのお礼。

　・平成30年度の入学者選抜について。

　・教頭より、学校協議会の実施要項の説明。

２．【報告事項】

　①平成29年度学校経営計画及び学校評価について

　○校長より

　　本年度の取組内容及び自己評価の説明をさせていただきます。エンパワメントスクール３年目となりました。教育内容の確立というところでは、新しい取組であるモジュール授業、エンパワメントタイムに関する生徒の肯定的な意見の割合が向上するよう努めてきました。結果としましては、「国数英の授業は毎日30分あるので学力がつくと思う」は72.6％、「エンパワメントタイムは将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う」は56.4％と肯定的な回答がありました。「わかる授業」「楽しい授業」をめざすために、授業改善の取組を行ってきましたが、「授業展開」の項目（先生の声や話し方は聞き取りやすくてわかりやすい）については４段階評価で４に近い方が肯定的な評価が高いということですが、今年度の平均は3.17でした。昨年度は3.13で、今年度の目標は3.15でしたので、数値目標は達成しました。生徒が授業を受けてどういう感想をもったのかを重要視していまして、生徒意識という項目がそれにあたります。「生徒意識１」の項目（授業内容に興味・関心を持つことができた）は3.05、「生徒意識２」の項目（授業を受けて知識や技能が身についた）は3.05でした。昨年度はそれぞれ2.98、3.01で、今年度の目標は3.0以上でしたので、２つともそれを超えています。かなり授業改善の取組の成果があらわれていると感じています。学校行事についてですが、山海人プロジェクトは台風のため、残念ながら実施できませんでした。体育祭、文化祭については事後アンケートにおける肯定的な意見は両方とも目標を達成しています。今年は体育祭、文化祭の行事そのものを楽しむ生徒が増えてきたと思います。国際交流については、台湾研修と海外の高校とのテレビ会議を行いました。台湾研修については多くの希望者の中から選抜を行いましたので、例年よりも積極的な活動を行えたと思います。また、２月１日に１，２年生全体の場で参加者は感想や学んだことの報告を行いました。寄り添う、粘り強い指導の中で、頭髪指導や遅刻指導など、生徒たちが社会に出たときに困らないように厳しくしているところもありますが、「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の否定的な意見は50%を割りました。厳しいけれど、先生は自分たちのことを思ってやってくれているんだということが浸透してきていると思います。「人権を大切にするための学習が行われている」は残念ながら目標達成はできませんでした。学校としてはやっていない訳ではなく、生徒がこれは人権の学習だとはっきり、わかりやすく受けとめることができていないと考えています。続いて、支援教育体制の充実についてという所につきましては、多くの生徒の個別の支援計画を中学校から引き継ぎ、その生徒たちの学習活動をずっと見ており、配慮や支援が必要な生徒につきましてはＳＣやＳＳＷの助言もいただきながら、新たに６名の教育支援計画を作成しました。組織的に生徒を支援する方針を出すことができてきたと思います。年度末にはＳＳＷによる教員研修を行い、配慮の必要な生徒への対応の具体について学ぶ場を設ける予定です。人の育成と管理については、動きが遅れたことで、１年生の担任団の任命が10月にずれこんでしまいました。地域連携については例年通り参加させていただいています。

　②平成29年度授業アンケート・学校教育自己診断アンケート結果について

　○校長より

授業アンケートについては１回目実施より、２回目実施の方が例年下がりますが、今年も同様です。この３年間でみますと、だんだんと上昇しているという結果が出ています。今後、１回目と２回目のギャップをどう解消していくかが課題です。続いて、学校教育自己診断についてです。生徒用については一部の項目を除き、全ての項目で昨年度よりは全校数値が上昇しています。下回っているのは「岬高校では、障がいのある人や外国の人と交流することで、ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」項目が昨年度50.3％だったのが、今年度47.2％と減少しています。原因としては、車イスバスケットを昨年度までのように全体にではなく、特定のクラスに対してのみ行ったことで、障がいのある方と触れ合う機会が少なかったからと考えています。全体的な結果から、学校生活に前向きな生徒が増加しているのかと思います。保護者用については全体的に横ばいか、少し減っていますが、大きな減少は見られません。最も減少しているところは、「岬高校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」の項目で、88.4％から81.6％へと、約７ポイント減少しています。保護者懇談や日頃の家庭連絡で、保護者との対応の中で気持ちに寄り添えているのかと点検する必要があります。教員用は全体的に横ばいか、増加しています。特に授業改善の取組を意識的にやっていますので、授業に対する意識、とりわけＩＣＴの活用については意識が高いことがわかります。ただ、先生方は自分の活用については増えていると感じていますが、学校全体についてはまだまだ活用の余地があるのではないかと考えている方が多いと思います。来年度はこれまで取組んできたことを継続しながら、組織的に計画的な取組が必要になってきます。

　③進路指導部、生徒指導部、総務部、国際交流委員会、山海人委員会、特別支援コーディネーターより報告

　○進路指導部より

就職一次試験の内定率は62.1％と過去５年の中では最も高い数値です。10月以降の二次試験は例年に比べ少なくなっています。それは一次試験で決まった生徒数が多いこと、３年生全体の母数が減っているからだと考えています。求人の状況ですが、昨年度と同様でかなり増加しています。進学の状況ですが、大学は11名と昨年度に比べ増えています。短期大学は１名、専門学校は38名です。続いて、各学年の進路関係の学習会です。昨年度と違うところは１年生のジョブチャレンジでテレビ局やゴルフクラブに連れて行きました。あとは学年の方針で進学に対する意識をつけたいということで、教員が引率し、大学や専門学校のオープンキャンパスに連れて行っています。今年初めてした職業体験セミナーには44名と多くの生徒が参加しました。好評で来年も実施予定です。２，３年生の学習会についてはそれほど変更していません。最後に、進路未決定者ですが、現在32名となっています。担任が把握しきれていない者も含まれますので、実際はもう少し少なくなると思います。ただ例年に比べ数は多いです。例年は就職６割、進学３割、未定が１割ですが、今年度は未定が２割と多いです。その理由ははっきりしたものはわかりませんが、卒業できるかどうか危うい生徒が多く、その先の進路のことまで考えられず、今は卒業めざしてがんばっているという生徒が例年に比べ多かったからかと考えています。また、毎年のように行動を起こさない生徒が多く、ハローワークで仕事を探したいという生徒も多かったと思います。

　○生徒指導部より

進捗状況としましては、昨年度から府道でスピードを出す車が増えた事で、横断する生徒については注意をし

てきています。当初は横断する生徒が多くいましたが、教員が指導した結果、そういう生徒もいなくなりました。喫煙防止の立ち番については、教員が所定の位置に立つだけでなく、登下校の集団にあわせて移動する事で、年度当初は喫煙に関する懲戒件数は上がっていましたが、今後は減少傾向になると予想されます。次に、生徒の地元の最寄り駅やコンビニから苦情等が入る事が多かったのですが、すぐに教員が出向く事で生徒にも注意する意識が生まれ、これも減少傾向にあります。これからも教員が一丸となり、学校全体で生徒の情報を共有し学校内外での問題に迅速に対応できる組織づくりをしていきたいと思います。

（質疑応答）

　委　　員：どこの生徒かはわかりませんが、淡輪駅にバイクで集まる者が最近はいます。

　生徒指導部長：何度か見回りに行っていますので、今はそういうことが少なくなっているのかと思います。

　委　　員：地元の人間としては、このように先生方が忙しいなか一生懸命立ち番等をして、少しでも良い生徒を

　　　　　　つくっていこうと大変ありがたく思います。しかし、先生方の仕事量も増えていることが最近問題に

　　　　　　なっていますが、それについてはどうお考えですか。

　校　　長：生徒が社会に出てからもなんとかしっかり生活してほしいという想いから、先生方にはやっていただ

いています。時間外の分もあることはありますが。

　委　　員：それがストレスと感じる先生はいませんか。

　生徒指導部長：朝の勤務時間前の立ち番につきましては、その時間分帰りを早くしてもらうなどで、対応しています。

　　　　　 生徒指導部としましては、特定の先生に立ち番が偏らないように、個々の立ち番の回数を確認し、平

均的に行っていただいています。

　委　　員：先生方には大きな負担にならないようにお願いします。

　校　　長：先日、学校経営計画を提出している関係の部署に指導を受けてきたところですが、来年度の計画につ

いては、働き方改革の学校としての目標を盛り込むようにと指示がありました。生徒指導の面でかな

り早朝から立ち番したり、放課後には家庭訪問したりとか、時間外のことがあったとしても、例えば

休める時は休み、年休取得率をあげるとかをみんなが意識してやりながら、長時間労働が続かないよ

うにという配慮もしていかなくてはいけないと考えています。

　○総務部より

学校行事とそれに対するＰＴＡ活動報告。

　　新会員入会式、体育祭へ参加協力、下校指導、ＰＴＡスポーツ大会、ＰＴＡ主催公開講座、３年生への面接指

導協力、ＰＴＡ社会見学、文化祭へ参加協力、公開講座、耐寒マラソン大会炊き出し、明岬発行について詳しく説明を行いました。行事に対して積極的な生徒が多く、それを保護者に見ていただく機会が多かった１年でした。

（質疑応答）

　委　　員：以前は明岬を岬町の回覧板で回していただいていまして、反響がありましたので、１年に１回は入れ

ていただいてもいいのかと思います。

　総務部長：間に合えば、年度末の回覧で回させていただきます。

　○国際交流委員会より

昨年末に５度目となる台湾研修を行いました。希望生徒を募集した結果、過去最高の16名が申し込んでくれました。これまでは研修人数は３名でしたが、今回からは５名に増やして選考試験を行いました。10月より毎週金曜日に事前学習を行い、英会話や台湾文化の学習、台湾現地での発表の練習などをしてきました。台湾研修に参加した生徒からの感想からもわかるように、充実した内容だったと考えています。また、帰国後生徒たちは自分たちが台湾で体験してきたことを友達に知ってもらいたいという思いで、１，２年生の集会にて報告会を行いました。

　○山海人委員会より

今年度は10月の全校一斉活動が雨天のため中止になりました。自然に触れ合ったり、地域の方とのコミュニケーションをとったりする大きなイベントとして計画させていただいていましたが、台風の影響、線路崩壊の影響を受けまして、中止となる残念な結果になってしまいました。昨年度までは年１回の行事でしたが、今年度からは２年生の選択授業「晴耕雨○」として、年間通して行っています。外部講師を招いたり、畑での継続した活動により、内容の濃い体験型授業が展開されています。この活動は地域の方のご協力、ご支援のもと成り立っているプロジェクトですので、来年度からもつながりを大切にしながら行っていきたいと思います。

　○特別支援コーディネーターより

高校生活支援カードにつきましては、１年生の提出率は100％でした。教育相談委員会の担当者が内容をとりまとめ、中学校からの聞き取り情報と共に確認できるようにデータをまとめました。個別の支援計画につきましては、新たに６名、合計7名の生徒分作成しました。支援計画は学校生活をスムーズに送るために、教員がどういった支援を行っていくかという内容になっています。個別の指導計画については各教科がどのように指導していくかというものです。今年度より始めたことですので、支援計画のある全ての生徒に対し作成しているわけではありませんが、ＳＣやＳＳＷにも入っていただき、早急に必要な２名について作成しました。来年度は支援計画を作成している生徒すべてに指導計画を作成する予定です。（スクールカウンセラー（ＳＣ）、スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）の活動内容についての説明を行いました。）両者を含めた教員とのケース会議は充実したものとなり、生徒支援が大きく進みました。

３．【協議事項】

　①授業アンケート・学校教育自己診断アンケートの結果を受けて

協議会長：何かあればお願いします。

委　　員：モジュール授業やエンパワメントタイムについて、生徒の肯定的な意見が増えているというのは、子ど

もたちが価値を見出しているというか、先生方ががんばっている成果だと思います。

委　　員：人権を大切にするための教育が行われているという質問に対しての肯定意見が低いですが、なぜ人権教

育を行うのかをしっかり伝えないと、いくら授業をしても意味がありません。そこをしっかりやると生

徒指導にもつながってきたりとか、子どものキャリア教育にもつながり、子どもにすごくプラスになり

ます。

委　　員：私は教員だったときに、生徒から人間らしくとはどういうことかと生徒から質問されまして、精一杯答

えたのですが、未だにわからないが続いています。定時制にいたときは、日本史の身分制度の内容にな

ったときに、生徒から自分たちは部落の者だが、一般の者との違いを教えてくれと質問がありました。

そこでは同じ赤い血が流れている日本人だと説明しました。この回答については後で反省することとな

りました。

委　　員：毎年、人権協会の方で夏に研修を行っていますが、今年度もたくさんご参加いただきました。人権とは

　　　　　生まれながらに誰にでも持っているものなので大切なものです。新転人者への研修をしても、初めて聞

　　　　　く話ですと言う人がたくさんいます。人権教育をしっかり受けてきた人と、そうではない人とでは教員

　　　　　になったときに、スタートラインで大きく差がでます。岬町に赴任したからには、部落関係のことにつ

いても勉強していただいています。

　②校則（生徒必携）について

教　　頭：昨年10月頃にニュースにもなりました頭髪を黒にしなさいという指導が問題になったことを受けて、

各学校で校則を見直し、不条理なものになっていないか点検しなさい。学校協議会でも意見をいただき

なさいとなっています。生徒指導に関わる事ですので、生徒指導部長から説明します。

生徒指導部長：生徒必携に掲載している生徒指導に関することの説明をさせていただきます。頭髪指導につきましては

　　　　　本校では期日を決めて直してきなさいと声をかけ、その期日までに直してこない場合は反省文等の指導

　　　　　を行っています。頭髪のチェックについては１人の教員で行うのではなく数名で行っています。また、

生徒の学業の機会を奪ったり等のことは一切しておりません。

教　　頭：今の説明の通り、本校では指導はしていますが、地毛を黒に染めなさいという指導はしていませんし、

　　　　　脱色した者については本来の色に直しなさいという指導をしています。その指導に従わない生徒につき

ましては粘り強く指導しています。かつては下校指導として、直してくるまで登校してはいけませんと

指導していましたが、今はそういう指導は行っていませんので、問題ないと考えています。

委　　員：数年前は茶髪が多くいましたが、今は流行は済んでいるのですか。

生徒指導部長：長期休暇期間になると脱色をしてしまう者が多くいますが、それが直しきれずにいる生徒がいます。生

　　　　　徒指導部としましては、社会に出たときに不利になってほしくないので、力を入れ、指導をしています。

委　　員：今は本当に少なくなりましたね。

生徒指導部長：制服をきちっと着る生徒も増えてきています。シャツを出したり、だらしない者は減りました。

教　　頭：指導については本校の先生方は生徒に分かりやすく、理解できるように丁寧に説明してくれています。

　　　　　校則については、以上の形でよろしいでしょうか。

４．【連絡】

　①学校運営協議会について

　○校長より

平成30年度から学校運営や学校の課題に対して、より広く保護者や地域の住民の方々が学校運営に参画できるようにと、今の学校協議会とそう変わらないものです。国の動きとしましては、平成27年12月に中央教育審議会から学校運営協議会の設置を努力義務としてコミュニティ・スクールを推進していく事が提言されました。平成29年４月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正されまして、学校運営協議会の設置が努力義務となりました。府の動きとしましてはそれよりもかなり先んじてやっていまして、平成12年から学校協議会の設置が始まりまして、平成15年には全府立学校に設置されました。平成24年からは府立学校条例に基づいて設置されています。大阪にはすでに学校協議会の仕組みがありますので、それを活かす形で国が言っている学校運営協議会に移行することになったということです。（表を参考に、役割について今の学校協議会と学校運営協議会との比較を行いました。）今までの学校協議会以上に、委員の皆さまには学校運営への参画とご指導賜りますよう、よろしくお願いいたします。

　②平成30年度の予定について

　○教頭より

第１回学校運営協議会の予定としまして、５月22日から28日の中間考査期間中に実施したいと考えています。協議委員になられました折にはよろしくお願いいたします。また、現委員の皆さまにおかれましては、２年間の任期ありがとうございました。以上をもちまして、第３回学校協議会を終了します。